

美郷大使の 永田萌さんが来町されました

2月14日から16日にかけて、絵本作家・イラストレータで美郷大使の永田萌さんが来町されました。永田さんは「カラーインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩感覚、「花と妖精」をテーマとした夢あふれる作風で、絵本やエッセイなど130冊を超える著書が出版されています。

永田さんは15日に名水市場「湧太郎」で行われたイベントで天筆書きに挑戦。各町内の雪宮などを見学した後、竹うちを観覧しました。16日に役場庁舎を訪れた永田さんは、「町を訪れた人が天筆を書いてカマクラ行事に参加できることは、とても素晴らしいことだと思います。炎が燃え上がり、天筆が空を舞う光景は絵のように美しかったです」と感想を語ってくださいました。

町では、町の魅力や観光を全国に発信するため、永田さんのほか、北都銀行取締役会長の町田睿さん、学習院大学教授の佐々木毅さんの3名に美郷大使を委嘱しています。



縄ないや天筆焼きを 体験しました

茨城県かすみがうら市との歴史学習交流

2月3日から5日にかけて、志筑小学校の4年生児童24名が美郷町を訪れ、歴史学習を通じて美郷町の小学生と交流しました。交流は、鎌倉時代から約400年にわたって旧千畑町の一部などを治め、江戸時代時代中期に茨城県旧千代田町周辺に所領替えになった本堂氏が縁となり、平成15年から行われています。

3日に進藤晃成さん（本堂西部）の案内で郷土資料館やわら細工館を見学し、縄ないを体験した志筑小の皆さん。翌4日には千屋小学校の児童と一緒に雪遊びや天筆焼きを体験したり、高山泰文千畑南小学校長の講話を聞いて雪国の文化や歴史について理解を深めました。

子ども安全集会

地域で子どもたちの安全を守ろう

犯罪や交通事故から子どもたちを守るため、見守り活動を行うボランティアの情報交換などを目的とした子ども安全集会が、2月4日に美郷町ふれあいセンターで開かれました。

集会では、県教育庁の若月浩志さんと大仙警察署の高山大樹さんが県内の不審者情報や見守り活動のポイントを説明。続いて町スクールガードリーダーの湊雄治さん（荒町）が冬期間の見守り活動の注意点について講話を行いました。参加した約60名の皆さんは、子どもたちの安全を守るため、地域で継続した取り組みを行うことの大切さをあらためて確認しました。

町では、子どもの見守り活動を行うボランティア「子ども見まもり隊」にご協力いただける方を募集しています。詳しくは、町教育委員会学務課（☎0187-84-4914）にお問い合わせください。



東北ふるさとCMフェスティバル

美郷町の作品が「ふるさとピュア歌声賞」を受賞しました

2月3日に仙台市のせんだいメディアテークで、東北6県のふるさと手作りCMの最優秀賞作品を集めた「東北ふるさとCMフェスティバル」が行われました。

秋田県からは、あきたふるさと手作りCM大賞2010で最優秀賞を受賞した美郷町の作品が県代表として参加し、「ふるさとピュア歌声賞」を受賞しました。受賞トロフィーは役場庁舎の玄関ロビーに展示してあります。来庁の際にぜひご覧ください。

今年も大いに盛り上がりました

中部関西美郷町ふるさと会

2月6日に中部関西地区美郷町ふるさと会の総会が愛知県名古屋市内のホテルで行われ、同会会員29名のほか、美郷町から松田町長、高橋町議会議長ら5名が来賓として参加しました。

総会に先立ち、煙山秀雄会長が「ふるさとを思う有志がこうして集まる限り、会を続けていきましょう。一年ぶりに会う人がほとんどなので楽しく互いの親睦を深めてください」とあいさつしました。総会終了後の懇親会では会員同士で近況を報告しあったり、町から参加した来賓に現在の美郷町のまちづくりの様子や豪雪の状況を尋ねるなど、終始笑顔の絶えない賑やかな会となりました。



町の魅力を再発見しました

美郷若者会議が六郷商店街でツアーを開催

2月13日に六郷地区の商店や酒蔵を巡るイベント「美郷なう。」が開催され、町内外から約50名が参加しました。このイベントは町の魅力を再発見して町内外に発信しようと、高校生から30代の町民20名でつくる美郷若者会議が主催して行われました。

町巡りは大人や小中学生、女性など、それぞれ対象の異なる3つのコースで行われ、このうち「大人の酒めぐりコース」には23名が参加。酒蔵で日本酒の製造過程の説明を聞いたり、酒販店で日本酒や酒かすなどをお土産に買い求めていました。参加者からは「初めて酒蔵に入ったので貴重な体験ができた」「商店街を散策できて楽しかった」という声が聞かれました。



「あるもの探し」

美郷町長 松田知己



美郷若者会議主催のイベントであいさつをする松田町長

先日、湧太郎の國之誉ホールにおいて、心に残るイベントが開催されました。美郷若者会議という団体が主催した「美郷なう。～あなたの知らない美郷町おしえます～」という町歩きイベントです。蛇足ながら「なう」という言葉は、昨年の流行語大賞トップテンの言葉で、英語の「今」を意味しています。携帯電話のツイッターで、現在の自分の状況をつぶやくときに用いているようです。

そのオープニングの際、主催者から「あれがないという視点でなく、あるものを探すという視点で云々」というご挨拶がありました。私は本当に嬉しくなりました。ないものねだりではなく、あるもの探しの意識。これこそ「今」の時代に求められている大切な姿勢、と私は常々思っています。

実は町の取り組みも、そんな想いで取り組んできたことがたくさんあります。地域を知る意味での「地販地消」の推進をはじめ、名木・古木や清水の調査、農産加工品の発掘などなど。その中で特に清水は、美郷を代表する地域資源として皆さんのご協力のもと町内をくまなく探索し、昨年そのデータベースを完成させたところなんです。その結果、驚くなかれ町内には三地区合

わせて126もの清水が存在していることが分かりました。みなさん、凄くないですか。この小さい美郷にこれだけの清水です。あるもの探しをした結果です。私は誇りに思います。

何とかこれを観光に活用したいと思い、これまで主清水を中心に町全体のマップづくりや汗を流してきましたが、この度ついに完成しました。町の施設に配置しながら、観光客の誘致と滞在時間の延長に活用していくつもりです。みなさんも機会を見つけてご覧いただきたいと思っています。知らなかった清水、きっとあります。そして、改めて美郷の良さと郷土への誇りを共有したいと思っています。

ところであるもの探しは、いろんな分野で応用が利きます。お節介！と言われそうですが、若者会議の皆さんには仲間の輪をどんどん大きくしてもらい、どうか良き伴侶探しもその活動に加えてもらいたいと思います。若者ががんばれ！